

恩讐を越えて

——ハウプトマン『織工たち』を読む

- 日時
2020年
1月14日(火) 『ハウプトマンの筆づかいに迫る——作品に見る豊かさと普遍性』
講師：丹下 和彦 (大阪市立大学名誉教授)
- 1月16日(木) 『織工たちが求めるもの——機械化、そしてAI化のなかで』
講師：柏木 貴久子 (関西大学教授)
- 両日とも19:00~21:30 (途中休憩あり)

■料金：1,200円

■対象：演劇経験不問。

ハウプトマン『織工たち』やドイツ演劇について、関心をお持ちの方ならどなたでも歓迎いたします。

■お申し込み方法：参加ご希望の方は、

①お名前②ご連絡先(電話番号・メールアドレス)を、下記、劇団メール宛にお知らせ下さい。

※お申し込みされた方には確認のため、info@seiryu-theater.jpより返信させていただきますので、事前にこちらのメールアドレスが受信できるように設定しておいてください。

■申込締切日 各講座実施の前日

■お問い合わせ・お申し込み

清流劇場 e-mail: info@seiryu-theater.jp

web: https://seiryu-theater.jp

■会場のお問い合わせ

一心寺シアター倶楽：06-6774-4002

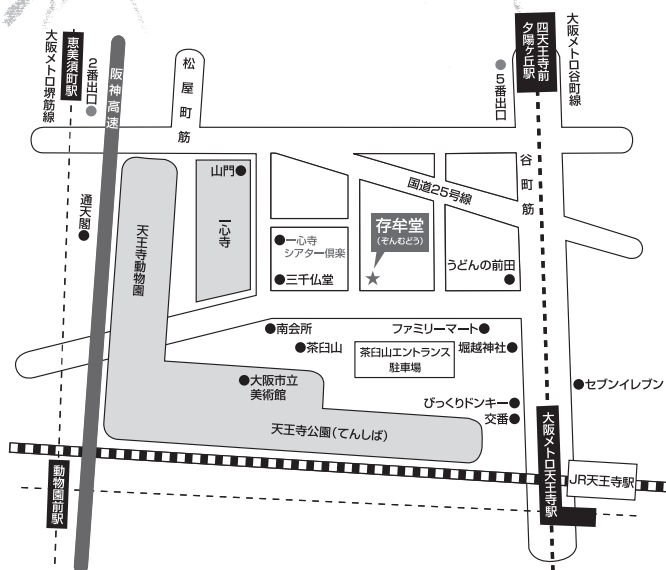
■企画・制作 一般社団法人清流劇場

■協力 一心寺シアター倶楽

1844年の夏、シュレージエン(旧ドイツ東部・現ポーランド領)のオイレンギルグ山中の機織りたちが、紡績業の機械化に反抗し一揆を起こしました。この史実に基づいて書かれたハウプトマンの『織工たち』。ドイツの戯曲において、プロレタリア(賃金労働者・無産者)の生活の実状が初めて芸術的に造形された自然主義文学の作品であり、世界的にも優れた作品の一つと評価されています。「織工たち=善」・「経営者=悪」という善悪二元論で世界を解釈するのではなく、恩讐を越え、相互が和解し合う世界への憧れを描いた作品です。

清流劇場はこの作品を3月に上演する予定です。上演に先立ち、広く一般の方にも参加していただける勉強会を企画しました。どなた様もふるってご参加ください。

田中 孝弥



■会場 一心寺 存牟堂 (ぞんむどう)

〒543-0062 大阪府大阪市天王寺区逢坂2-4-13

※各線「天王寺駅」、Osaka Metro谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」、堺筋線「恵美須町駅」より、徒歩約10分。

※お客様用駐車場はございません。

お車で越しの場合は近くのコインパーキングをご利用ください。